

# はじめに

消防団の歴史は古く、江戸時代に南町奉行、大岡越前守忠相が組織した「いろは48組」の町火消しがルーツとなっています。普段は鳶の者として土木や建築等の生業に従事しながら、一旦火災が起これば消防に早変わりし、その経費は、町内会によって決められ運営されていたといわれています。

川口市においては、明治19年に消防組が結成され、その後消防組と私設防護団を統合しての警防団を経て、昭和22年の消防団設置条例により川口市消防団が誕生し、平成23年の鳩ヶ谷市との合併を経て、現在では1団本部、11支団、30分団、427人（組織及び実員数：令和2年4月1日現在）の団員で組織されています。そして、このような長い歴史とともに地域防災の要としての役割は大きく、火災・水害・震災など災害防除活動はもとより、各種防災訓練・行事においても常備消防ともども本市防災の中樞をなしています。

## 川口市消防団の歩み

### 1 市制施行前の旧町村別消防概要

#### 【旧川口町消防組】

明治19年

上宿組、中宿組、下宿組、宮元組の4組の消防組が結成され、各組に頭取を置いた。

明治27年

勅令をもって消防組規則が制定され、各組は部と改組され、腕用ポンプ1台が装備された。

大正3年

機構が改革され、総員103名3部制となり、各部に腕用ポンプ1台が装備された。  
組頭 田島 房邦 氏

大正8年

戸数増加に伴い、総員155名となった。

大正11年

川口在郷軍人会が主体となり、消防施設改善期成会が組織され、ノーザン式手引ガソリンポンプ1台が購入された。

昭和2年

はじめて、ポンプ自動車（ノーザン式、ハドソン）1台が購入され、第1部に配置された。

昭和6年

乗用車（グラハム）1台を購入して、これに、ノーザン式手引ガソリンポンプを乗せて改造し、第2部に配置した。第3部には、3輪自動ポンプ（フォード、ノーザン式）1台を購入配置し、各部とも機動力が備わった。

#### 【旧横曽根村消防組】

明治27年

勅令をもって消防組規則が制定され、3部制、組員100名で発足。

大正3年

機構改革により、組員を150名に増員し、各部に腕用ポンプ1台が配置された。  
組頭 篠田 伝太郎 氏

大正13年

荒川放水路改修工事による区画変更により、第3部(大字浮間)は東京都に編入された。

昭和3年

手引ガソリンポンプ1台を購入して、第2部に配置した。

昭和7年

自動車ポンプ1台を購入して、第2部に配置した。

#### 【旧青木村消防組】

明治20年

各大字単位の上青木組、前川組、下青木組の3部制で発足した。

明治40年

各組を統合して、青木村消防組に改組して3部制とし、各部に腕用ポンプ1台を配置した。組員150名

#### 【旧南平柳村消防組】

明治19年

各大字単位の領家組、元郷組、十二月田組の3組制で発足した。

大正6年

各組を統合して、南平柳消防組に改組して4部制とし、各部に腕用ポンプ1台を配置した。

組頭 倉田 源十郎 氏

昭和3年

自動車ポンプ1台を購入し、第5部(特別自動車隊)を新設して配置した。

## 2 市制施行後

昭和8年

川口町、横曽根村、青木村、南平柳村が合併して市制が施行され、4月1日これに伴い各組を統合して8部制(川口町1・2・3部に、南平柳4・5部、青木6・7部、横曽根8部)とし、消防組本部に常備消防班(班長小頭1名、消防手12名、2交代制)を設置し、総員400名とし、名称を川口消防組と改めた。

昭和14年

勅令20号により、警防団令が公布施行され、消防組と私設防護団を統合して、川口警防団と改称し、10部制となり、定員1,500名とした。

昭和15年

隣接の鳩ヶ谷町、神根、新郷、芝村の4ヶ町村が合併されたが、各警防団は、そのままの名称で存置され、川口、鳩ヶ谷、神根、新郷、芝の5警防団となった。

昭和16年

芝警防団が川口警防団に編入し、第5分団となり、4警防団となった。

昭和18年

川口警防団を6分団制に改め、定員1,550名となった。

団長 岩田 三史 氏 鳩ヶ谷、神根、新郷の3警防団を統合し、名称を川口鳩ヶ谷警防団と改め、定員635名、6分団制とした。

団長 保坂 善八 氏

これで市内の警防団は、2団となり、定員合計2,185名を擁するに至った。

昭和19年4月1日

特設消防署設置規定（大正8年勅令第350号）により、埼玉県告示第191号を持って、川口市一円を区域とする特設消防署が設置されることになり、従来の常備消防班を包含して埼玉県川口消防署が設置された。

同告示第247号により、川口市本町2-99の1に埼玉県消防訓練所が設置された。

同告示第248号により、鳩ヶ谷、横曽根両出張所、元郷、青木、芝各派出所が設置された。陣容は1署、2出張所、3派出所、定員207名。

初代署長 高林 信次郎 氏

昭和22年

勅令第185号をもって、消防団令が施行され、警防団は消防団と改称された。

消防団令に基づき、川口市消防団設置条例が定められ、5分団制定員400名。

団長 高橋 八郎 氏

同じく川口鳩ヶ谷消防団設置条例が定められ、6分団制、定員746名。

団長 保坂 善八 氏

両団合計11分団、1,146名となった。

### 3 消防組織法施行後

昭和23年3月7日

消防組織法が施行され、官治消防は自治消防へと、画期的な消防機構の改革が行われ、川口市消防本部が設置された。

昭和23年9月7日

2つの消防団を統合し、地域別に8消防団を設置し、連合制をとり、川口市連合消防団本部を設けた。初代連合消防団長 高橋 八郎 氏

昭和25年11月1日

鳩ヶ谷町が分離したので、消防団は1つ減り、7団832名となった。

昭和27年4月7日

消防団幹部会議を開き、団員定数改組を決議し、4月25日、825名を500名に減員した。

昭和31年4月1日

安行村が合併したので、この区域を川口市安行消防団と称し、8団543名となった。

昭和37年2月15日

美園村が配置分合したので、この区域の戸塚消防団を川口市連合消防団に編入し、9分団とした。

昭和38年8月1日

第2代消防団長 高德 勝之助 氏

昭和39年9月1日

消防団幹部会議の議決により連合消防団の廃止と団員定数改組を決定し、1団9分団制、定員520名とした。

昭和41年

消防団幹部会議の団員の少数精鋭化の議決により、520名の定員を4月1日、424名とした。

昭和52年11月14日

老朽化した普通ポンプ自動車をいすゞエルフトLD44改型、CD-I型、ディーゼルA-2級に買替え、2個分団（第5分団・第8分団）に配備し、消防力の強化を図る。

昭和53年10月31日

老朽化した普通ポンプ自動車をいすゞエルフトLD44改型、CD-I型、ディーゼルA-2級に買替え、2個分団（第2分団・第4分団）に配備し、消防力の強化を図る。

昭和54年3月26日

老朽化した第6分団第1消防部の車庫を木造カラー鉄板瓦棒葺2階建、延面積41.31㎡に改築した。

昭和54年11月28日

老朽化した普通ポンプ自動車をいすゞエルフトLD44改型、CD-I型、ディーゼルA-2級に買替え、第1分団第2消防部に配備した。

昭和55年9月1日

第3代消防団長 岩井 尚明 氏

昭和56年2月28日

老朽化した普通ポンプ自動車をいすゞエルフトLD44改型、CD-I型、ディーゼルA-2級に買替え、第3分団第1消防部に配備した。

昭和56年3月10日

老朽化した第3分団第2消防部の車庫を鉄骨造折板葺2階建延面積167.94㎡に、また、第7分団木曾呂器具置場を川口市大字木曾呂390、木造瓦棒葺2階建延面積81.54㎡に改築した。

昭和56年11月19日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第2分団第1消防部に配備した。

昭和57年

老朽化した第2分団第1消防部の車庫を鉄骨カラー鉄板瓦棒葺2階建延面積70.14㎡に改築した。

昭和57年11月11日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第1分団第1消防部に配備した。

昭和58年3月30日

老朽化した第8分団第1消防部の車庫を鉄骨造トタン葺2階建延面積110.07㎡に改築した。

昭和59年3月21日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第4分団第3消防部に配備した。

昭和59年12月25日

老朽化した第6分団第2消防部の車庫を改築。

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第7分団第3消防部に配備した。

昭和60年8月10日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第5分団第2消防部に配備した。

昭和61年3月20日

老朽化した第4分団第3消防部の車庫を、鉄骨2階建延100.78㎡に改築した。

昭和61年11月10日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第8分団第2消防部に配備した。

昭和62年2月26日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第7分団第1消防部に配備した。

昭和62年11月7日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車2台をCD-I型に買替え、第4分団第1消防部と第6分団第1消防部に配備した。

昭和63年2月26日

老朽化した第8分団第2消防部の車庫を、2階建延112.0㎡に改築した。

昭和63年9月1日

第4代消防団長 福島 弘 氏

昭和63年12月20日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車2台をCD-I型に買替え、第3分団第3消防部と第9分団第2消防部に配備した。

平成元年3月24日

老朽化した第7分団第1消防部の車庫を、鉄骨2階建延面積105.84㎡に改築した。

平成2年2月16日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車2台をCD-I型に買替え、第3分団第2消防部と第6分団第2消防部に配備した。

平成2年12月20日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第9分団第1消防部に配備した。

平成3年3月25日

老朽化した第9分団第1消防部の車庫を鉄骨2階建延面積132.86㎡に改築した。  
また、上青木分署内に配置している第3分団第3消防部の車両を、上青木2丁目地内に新築した鉄骨2階建延面積105㎡の車庫に配置した。

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第9分団第3消防部に配備した。

平成4年1月8日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第7分団第2消防部に配備した。

平成4年2月28日

老朽化した第4分団第1消防部の車庫を鉄骨2階建延面積130.5㎡に改築した。

平成4年12月21日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第5分団第1消防部に配備した。

平成5年2月26日

老朽化した第4分団第2消防部の車庫を鉄骨2階建延面積70.02㎡に改築した。

平成6年3月10日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第8分団第1消防部に配備した。

平成6年3月25日

老朽化した第7分団第2消防部の車庫を鉄骨コンクリート造2階建延面積109.88㎡に改築した。

平成7年3月7日

消防団車両で老朽化した普通ポンプ自動車をCD-I型に買替え、第2分団第2消防部に配備した。

平成7年10月1日

第5代消防団長 鹿島 輝雄 氏

平成8年2月6日

地震対策及び今後の多目的ポンプ運用方法を考慮し消防団に初めて全自動小型動力ポンプ付き積載車を購入し、第4分団第2消防部に配備した。

平成9年2月28日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を全自動小型動力ポンプ付き積載車に買替え、第1分団第1消防部及び第3分団第1消防部に配備した。

平成10年4月1日

消防団の活性化を図るため、定年制を盛り込んだ「川口市消防団活性化総合計画」を策定し、実施した。

第6代消防団長 中山 謙二郎 氏

平成11年3月31日

消防団基盤緊急総合整備事業により災害防御用資器材として、50mm用放水資器材等及びチェーンソーを各消防部に配備した。

平成12年11月1日

消防団活性化の一環として服制の検討を行い、作業帽をアポロキャップ型とした。

平成12年4月1日

消防団条例を改正し、現行の1団本部9分団制から、1団本部9支団23分団制とし、定年制を導入する等組織の充実強化を図った。

平成14年4月1日

川口市初の女性消防団員12名を任用し、各支団付け配置した。

平成15年12月18日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第1支団第2分団及び第2支団第1分団へ配備した。

平成17年1月12日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第3支団第3分団、第7支団第1分団、第8支団第2分団、第9支団第2分団へ配備した。

平成17年3月16日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第7支団第3分団へ配備した。

平成17年10月31日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第3支団第2分団、第4支団第1分団、第3分団、第5支団第2分団、第6支団第1分団、第2分団及び第9支団第1分団へ配備した。

平成19年2月6日

老朽化した小型ポンプ積載車を普通消防ポンプ自動車CD-I型に買替え、第7支団第4分団へ配備し、普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第9支団第3分団へ配備した。

平成19年12月19日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第7支団第2分団へ配備した。

平成20年12月4日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-I型を更新し、第5支団第1分団へ配備した。

平成21年2月25日

平成20年度消防庁長官表彰「消防団等地域活動表彰」を受賞。

平成22年2月10日

日本消防協会長表彰 優良消防団表彰（表彰旗）を受賞。

平成22年3月4日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-1型を更新し、第8支団第1分団へ配備した。

平成22年4月1日

第7代消防団長 金子 利夫 氏

平成23年2月21日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-1型を更新し、第2支団第2分団へ配備した。

平成23年10月11日

鳩ヶ谷市との合併を行い、川口市消防団が1団本部、11支団、29分団の体制となった。

平成24年1月26日

老朽化した普通消防ポンプ自動車CD-1型を更新し、第4支団第2分団へ配備した。

平成24年3月30日

第7支団第3分団車庫を従来の大字西新井宿351から大字新井宿13へ移設し、木造モルタルコロニアル葺平屋建延面積119.24㎡を新築した。

平成25年2月22日

老朽化した普通消防ポンプ自動車及び小型動力ポンプ付積載車を更新し、普通消防ポンプ自動車CD-1型を第1支団第1分団、第3支団第1分団及び第11支団第1分団へ配備した。

平成25年12月13日

消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、もって住民の安全の確保に資することを目的として「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が公布、施行（一部を除く）された。

平成26年3月1日

川口市消防局の消防・救急無線が、アナログ無線運用からデジタル無線運用に移行されたことに併せ、消防団車両29台及び分団長以上の45名にデジタル無線専用受令機を配備し運用を開始した。

また、平成24年5月に消防団の連絡手段の確保として運用を開始した簡易デジタル無線局を48台増設（合計180台）するとともに、大規模災害時の参集場所を各受持分署とし、支団本部として運用を開始した。

平成27年7月25日

県内消防団の活性化と女性消防団員の増員を図り、地域防災力の充実強化に寄与することを目的に、初めて「埼玉県女性消防団員大会」が深谷市で開催された。

平成27年11月1日

埼玉県で初めて女性消防団員が採用された平成元年11月1日に因み、同11月1日を「埼玉県女性消防団員の日」とし、県、市町村、消防団が一体となったPR活動を展開することが宣言された。

平成30年4月1日

第8代消防団長 吉田 幸市 氏

平成30年4月1日

川口市内の郵便局3局（川口・川口北・鳩ヶ谷）において機能別団員16名が入団。川口市消防団が1団本部、11支団、30分団（うち機能別分団が1分団）の体制となった。

令和元年9月30日

平成24年5月に消防団の連絡手段の確保として運用を開始した簡易デジタル無線局を経年劣化に伴い166台更新した。

令和2年2月28日

第11支団第2分団車庫を従来の八幡木1丁目22番18号から三ツ和3丁目19番地の17へ移設し、木造サイディング張2階建延面積128.86㎡を新築した。

令和2年3月30日

第10支団第1分団車庫に木造サイディング張平屋建延面積43.04㎡の待機室を増築した。

令和3年4月1日

第9代消防団長 菅岩 良司 氏